



「生誕150年おめでとう」 展示書籍のご紹介



1 おめでたい誕生日



ハッピーバースディ、幾多郎さん!!
ところで、どうして誕生日はめでたいの？

『生まれてこないほうが 良かったのか?』

森岡正博／著 筑摩書房
仏教、ショーペンハウアー、現代の反出生主義。
「生まれてこないほうがよかった」という考えは
昔からあったし、今もある。
「誕生」はもしどうしたら肯定できるのか？



2 キリのいい数



「149」でも「151」でもなく「150」
「150」は素敵な、キリのよい数に見える。
そもそも数って何だろう？

『アリになった数学者』

森田真生／著 福音館書店
アリには、かぞえるための指がない。
たくさんものを同時に見わす視力もない。
ものを1個、2個、3個と数えるのは人間だけ
なのかもしれない。
アリにとっての数とはどんなだろう？



3 時間ってなんだろう？



時間のあるこの世界では、
知らぬ間に時が経ち、物は壊れて失われる。
だからこそ人は記念日を作るのかもしれない。

『時は流れず』

大森荘蔵／著 青土社
過去を思い出す、と言ったりする。ないものを
思い出すのは変だから、過去はあるのだろう。
でも本当にそうだろうか？
過去は想起であり、想起とは過去を言語的に制
作することだ、という大森荘蔵の時間論。



4 思い出を残すための方法



人は、思い出を残すために記念日を祝うのかもしれない。
私たちが生きた思い出や痕跡を残すには、
どんな方法があるのだろうか？

『思い出になるおべんとう』

アンジェロ・コッツオリノ／著 アスコム
おべんとうは食べたらなくなる、食べなくても腐る。
思い出は食べた人の心の中に残るのだろうか？
その人だって、忘れるし、いつか死ぬ。
忘れられても残るのは、たとえばこの本のように
活字で残されたレシピかもしれない。



5 150年の歴史？



時間がたてばなんでも歴史になるわけではない。
誰かが語ってはじめて歴史が生まれる。
歴史を物語るとはどういうことか？

『歴史を哲学する』

野家啓一／著 岩波書店
人間は、神様のように唯一の正しい歴史を語る
ことはできない。私たちは過去を想起し、その
痕跡からなんとか歴史に迫ろうとする。そんな
人間にとって「歴史的事実」とはどんなもの
だろう。



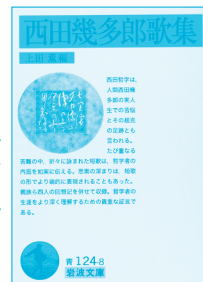
6 幾多郎の記念日



誕生日、結婚記念日、離婚＆解雇記念日
幾多郎のいろいろな記念日

『父』『西田幾多郎歌集』

西田外彦 他／著（上田薫 編）岩波書店
幾多郎の誕生日は2つある。一つは戸籍の誕生日
「明治元年8月10日」。もう一つは「明治3
年5月19日」、こちらが正しい誕生日である。
幾多郎に早く教育を受けさせるため、父親が戸
籍を書き換えたために2つの誕生日が生じた。



図書室の紹介

哲学館の1階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強をした
い方のための本まで、さまざまな哲学の本が9,000冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた
時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください。